

平成 31 年 2 月 27 日

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報（第 4 号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名 : バラハオレタマバエ *Contarinia* sp.
2. 作物名 : バラ
3. 発生地域 : 日高地域
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

平成 31 年 2 月上旬に日高地域の施設栽培バラにおいて、新葉が折り畳まれて奇形となり、内側が食害されている葉が見つかった。被害葉を広げると、中肋に沿ってハエ目と思われる幼虫が多数生息していた。佐賀大学農学部応用生物科学科の徳田誠准教授に同定を依頼したところ、ハエ目タマバエ科のバラハオレタマバエであることが判明した。なお、県内では当該施設以外で本種の発生は認められていない。

本種は、平成 10 年に山口県で初めて発生が確認された。その後、東北地方から九州地方までの 17 県で発生が確認されている。

5. 形態および生態

成虫は、展開途中の新葉の表側の中肋に沿って産卵する。孵化した幼虫が中肋部を食害するため葉は正常に展開せず、葉折れ症状を示す。幼虫は、体色が白色～黄色で体長は 1～2 mm。3 齢を経過すると葉から離脱し、土中のごく浅い部分で蛹になる。

1 世代の所要日数は 15℃で 47.5 日、20℃で 29.0 日、25℃で 17.5 日である。5～8 月上旬にかけて 4～7 回、9 月中旬～10 月にかけて 2～3 回の発生がある。成熟した幼虫が土中で越冬すると考えられている。盛夏期は高温や乾燥により発生が認められなくなる。ただし、冷夏の年には発生が途切れない場合もある。

6. 被害の特徴

新葉が中肋に沿って、葉表が内側になるように 2 つに折り畳まれる（図 1）。被害が出始めの葉では、折り畳まれた部分を開くと幼虫が数頭～十数頭みられる（図 2）。蕾が食害された場合は変形花となり、商品価値が低下する。

7. 防除対策

- 1) 現在、バラにおいて本種に対する登録薬剤はない。
- 2) 被害葉・被害蕾を発見したら速やかに除去し、適切に処理する。



図1. バラハオレタマバエによる葉の被害

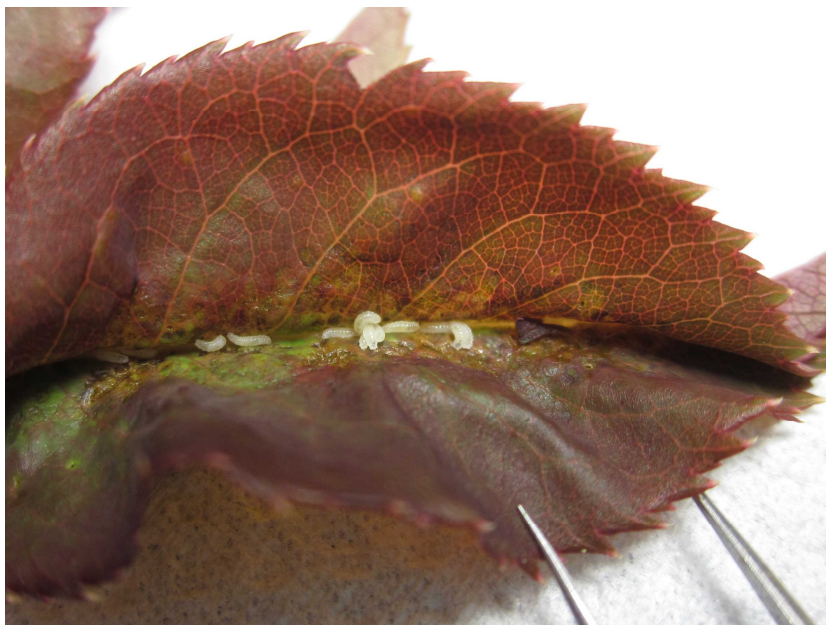


図2. バラハオレタマバエの幼虫

和歌山県農作物病虫害防除所  
担当：井口  
電話：0736(64)2300